

ネパールと福島の子供たちの交流による復興未来作り

ーエネルギーハーベスト技術を活用した適正技術の実装ー

早稲田大学理工学術院 師岡慎一 / いわきおてんとSUN企業組合

研究・活動の目的と概要

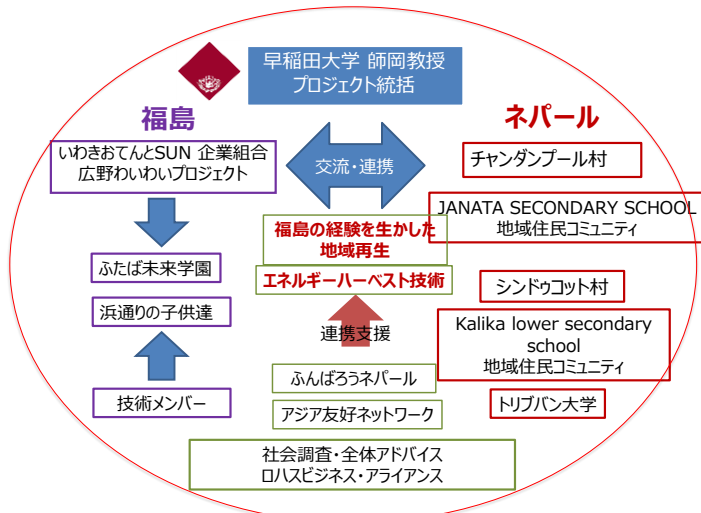
プロジェクト全体をSDGsと関連づけつつ、被災地の地域再生の課題を解決するため下記研究活動を行う

- ① エネルギーハーベスト(環境発電)の適正技術化に向け指導・移転を交流を通じて行う
- ② 国を超えた子供や多世代の交流の有効性を明らかにする



7 クリーンエネルギー 9 産業と技術革新の基盤 (グリーンインフラ) 1 貧困をなくす 4 教育 10 平等 17 パートナースHIP

研究・活動の実施体制



活動の内容と成果

適正技術による、エネルギーハーベスト技術の村民、学校連携活用による実現

1. 広野町ふたば未来学園講習会



2. ネパールJANATA SECONDARY SCHOOL講習会



前期設置のシステムの状況、ニーズの変化を確認し、2ndステージでの実装に備える

1. 学校の状況確認、ニーズ調査



2. 地域住民への技術指導



地域資源を活用し、連携による地域再生に向けた調査

1. 自生するイラクサ、ロクタを活用した手作品調査



2. 連携による地域再生に向けての商品開発検討



福島の実験をネパール復興やSDGsと連携させる

1. エネルギーハーベストを活用した交流が、地域課題にどのように貢献出来るかを検証



W-BRIDGEへの感謝状



1st Stage

定量的目標と成果

- ・エネルギーハーベスト講習会を福島にて4回開催、イベント出展1回 (参加者92名)
- ・ネパールでの講習会2回開催 (参加者32名: うち大人8名、子供24名)
- ・ネパール自然素材イラクサ、ロクタ、ルドラクシャの調査研究の実施。

2nd Stage への展開

1. **エネルギーハーベスト技術による通信**: 福島とネパールの未電化地域を繋ぐための講習会の実施。通信の実現と適正技術化。
2. **福島の実験を生かした地域再生に向けての商品開発**: ロクタ紙、イラクサ製品、ルドラクシャ(菩提樹の実)を活用した連携商品の試作。
3. **研究・活動のSDGsへの貢献**: SDGs目標に沿って、多くの課題を抱えるネパールの農村にどのような貢献をすることが出来るのか。交流・連携がいかに効果を促進するか、実装により研究。また、その成果を広報する。